

勝林寺寺報

生の縁 無量。
死の縁 無量。

そのいのちを
今 生きている不思議。
議。

縁無量

人のいのちを支えているのは、四〇兆もの細胞のはたらきです。それぞれに違ったはたらきや特徴をもった無数の細胞が、微妙複雑に組み合わさり、相互にはたらきあって、それで一人の人間のいのちが息づいているということです。

これは単に肉体のできたちばかりではありません。私のこのいのち。たとえばあの人この人、このことあのこと、無量無数の縁に育てられ支えられて、はぐくまれていくいのちです。無数不可思議な縁に支えられて生かされているいのち。

と同時にまた、このいのち。このいのちを支えている無量無数の縁の内、たった一つが狂っても、いつ何時どう変わってしまうかも知れぬ、危ういのちであることもしらなければなりません。「死の縁は無量」このからだを組み立てている四〇兆もの細胞の、そのひとつが狂っても、その人のいのちは、全く変わってしまうかもしれないのです。私のいのちは、いつもそんな無量な危機性・危険性・無常性をはらんで生きていくのです。

死の縁は無量です。

若いからといってもそのいのち、死の縁を無量にもっているのです。強いからと誇ってもそのいのち、死への可能性を無限に孕んでいるのです。その無常ないのち。いつ死んでも不思議ではないこのいのちを、しかしいま生きていくことの不思議さを思わしめられるこのころであります。

御入学おめでとう

- 栗尾 中尾 浩規 くん
- 小谷 宮嶋 雅志 くん
- 出合 生田 沙織 さん
- 矢根 永井 裕美 さん
- 矢根 永井 佐智子 さん
- 榎見 横山 佳子 さん
- 坪口 関岡 雅伸 くん

1990年。新しい年代の最初の年の入学です。ここから新しい世代が育ちはじめるように思います。慶びと期待をもってこの子たちの成長を見守りましょう。



葬儀

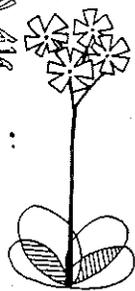
- 二月一日 加古川 木上 恒 様
- 三月四日 出合 生田 静子 様
- 三月十日 鍛冶屋 中山信太郎 様
- 三月二十一日 矢根 出石山 佐一 様



三月十一日(日)、ようやく春めいた朝、宮嶋真彦くんの初参式がおこなわれました。寿賀雄・由加ご夫妻の長男として元気に生まれた真彦くんは、随分長く待たれただけに曾祖母宮嶋聡子さんをはじめ祖母一男・寿美代さんからの最高の慶賀のなかですくすくと育っています。名前のおりに真実のみちを真心をもって真っすぐにあゆんでほしいと念じました。

花の研修会

観桜会



4月28日 開会4時半

◎観桜会

6時 会場 本堂
会費 ① ¥1500円
② ¥1300円

◎研修会 「仏教とボランティア」 住職の講話・話し合

四月のこよみ

- 一日 出石組組会 正福寺 齋藤保氏宅法事・鷲尾衛鳳氏結婚式
- 二日 山田弘氏宅法事
- 三日 古田耕三氏宅法事
- 四日 中川信氏宅祥月・報恩講
- 五日 中山隆雄氏宅七日
- 六日 光頭寺永代経
- 七日 光頭寺永代経
- 八日 長谷川政治氏宅法事
- 九日 森戸康雄氏宅法事・水島元三氏宅百ヶ日
- 十日 沢田由男氏宅法事
- 十一日 玉日会法話 正福寺
- 十二日 念仏奉仕団
- 十三日 念仏奉仕団
- 十四日 中山隆雄氏宅七日
- 十五日 龜井孝氏宅忌日
- 十六日 兼井元三郎氏宅法事
- 十七日 中山隆雄氏宅七日
- 十八日 生田善一氏宅忌明
- 十九日 玉日会降誕会
- 二十日 浜大喜雄氏宅法事
- 二十一日 同く法事
- 二十二日 同く法事
- 二十三日 山石組連研
- 二十四日 山石組連研
- 二十五日 山石組連研
- 二十六日 山石組連研
- 二十七日 山石組連研
- 二十八日 山石組連研
- 二十九日 山石組連研
- 三十日 山石組連研



思いやる心

私もせんだって都会に出たついでに実験をしてみ、あらためて驚かされました。

いつか新聞に書いてあった通りでした。

デパートなりスーパーなり、人の出入りするドアを開けて入ります。その瞬間、あとから来る人が気になって、ドアを開いた手をそのままに、押えて待ちます。次の人が通りやすいように。

そのとき後から続いて入って来る人がどんな態度をとるだろうか。

本当に新聞に書いてあった通りでした。

イエ、私の場合はちようどお昼まえで、特に人の混雑していた時間帯だったからかもしれません。

「ヤア」とか「すみません」とか「おそれいます」とか、とにかく挨拶のことばをかけて通った人は、ほんのわずかでした。それも中年以上の人に限られていたように思います。

大勢ひとかたまりに、おしゃべりに夢中ないわゆるギャルたちは、自分達のおしゃべりに夢中だったからでしょうか、ドアを押えて待っている者などチラッと見ないで通り過ぎて行ってしまいます。

「傍若無人」ということばがあります。かたわらに人無きがごとく振る舞いをするのですが、正に、今の日本人は人のこと相手のこと他人のことなど殆ど無視してくらす習性になってしまっているのではないかと驚かされました。

外国の人が日本にやってきて、いちばん驚くのは、日本人のこうした態度だと申します。そして外国の人は、成程とうなずくのだそうです。

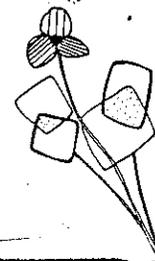
海外での日本人の商売のやり口、国際社会での日本の国の振る舞いは、やっぱここに根っこがあったのかと合点する

というのです。

如来さまは、私達を「衆生(サツトバ)」。もろもろの共に生きるものたちよ共に来れと呼んでくださいます。

如来さまのお呼び声のなかで私達、会見互い、人のこと他人のこと相手のことを思いやる心。そんなところをもう一度考えて見たいと思うのですがいかがでしょうか。

出石組「連研」に参加しよう!



いよいよ第七期の連研が四月二十二日の開会式からはじまります。浄土真宗は、今ここに生きていくいのちの真実に目覚めようと教えます。若いいのちを生きているあなたに聞いて欲しい仏法です。名ばかりの門徒ともしられないよう、どうぞ連研に参加してください。

出石組「連研」(門徒推進者育成連続研修)のご案内

私達は、昔からの伝統や習慣のなかで、ただなんとなく私の家は浄土真宗、わたしは真宗門徒と生きてきましたが、これではしかし、(名ばかりの門徒)ともしられても仕方ありません。私達ひとりひとりが真の念仏者になり、その念仏者が寄り合って生き生きとした寺を動かす、そんな念仏御同朋の教団に生まれ変わろうという願いのもとに始められたのが「門信徒会運動」「同朋運動」のいわゆる「基幹運動」です。この「基幹運動」のいちばん具体的な実践として、いま宗門あげて取り組まれているのがこの「連研」です。

では、真の念仏者になるというのはどういうことでしょうか。みずからすすんで正しいおみのりを聞いて、真実の教えに生きるわたしとなることです。従来のように、付き合いや義理でのお寺参りではなく、また、その場その時だけの、断片的な知識を得るための研修会ではなく、自分の生死の問題を、真剣に、しかも継続的に、法の友とともに話し合い考え合いよろこび合おうというのがこの「連研」の願いです。

系統立ったカリキュラムによって、同じ人が一定期間(二年間)連続して研修し、宗教・仏教・浄土真宗・その他おつとめや作法も学ぶなかで、真宗門徒として御同朋御同行の喜びと智慧とを、自身のうちに培ってゆきたいのです。

出石組では昭和五十一年から重ねて六期の「連研」を終え、五百人近い人々に研修をしていただきました。いま、あなたに、開法のとき研修の機会がおとずれたのです。どうぞ趣旨ご理解のうえご参加お申し込みくださいますようご案内申あげます。

平成二年三月十日

兵庫県出石組 組長 山崎 一郎



3月19日、坊守が昨年の病気が再発して豊岡病院に入院しました。26日まで検査をうけ27日からいよいよ治療にはいりました。予測では3ヶ月は要することです。皆様からのご心配をいただいて、せっかく元気にしていただいていたのに、このような仕儀になりましたこと、誠に申し訳なくおもいます。本人・寺族ともども深くお詫び申し上げます。と共に関後いろいろご迷惑をおかけ致すことですが何卒ご寛恕くださいませ。

おわび



仏壯・仏婦合同 研修旅行

5月27日・28日

昨年度合で休みました研修旅行、今年こそは有意義に楽しく盛り上げたいと計画しました。ご協力ください。一人でも多い参加をお待ちしています。

旅程 ① 京都西本願寺での研修

② 大谷本願への納骨

③ 古都奈良の名刹参拝

参加費 二万五千円

申し込み

I、地区ごとに仏婦評議員に申し込んでください。

II、別配布の申し込み書に予納金三千円を添えて申し込み下さい。

III、四月二十八日までにお届け下さい。